

## 「みつば会」会員親睦旅行に参加して

### 互助会幹事 中山市郎

新型コロナで暫くの間実施できなかった「会員親睦旅行(10月22,23日)」に、初めて参加をしました。

1日目の「マリンピア日本海」でのイルカショーはよく訓練されており、飼育員のガイドでイルカ自身が着々とプログラムの芸をこなしていく様を見て、一体どのようにして芸を教えているのかも知りたいと思いました。

他にも「菅谷不動尊」と「胎内観音」を見学しましたが観音を拝む為に、長い急な階段を皆さんは元気に上り下りをしていて感心しました。

泊りの宿となった「大観荘せなみの湯」からは、絶景の夕日を見ながらの入浴を期待していましたが、あいにく曇空の為、夕日を眺めることができませんでした。

その分宴会では大いに盛り上がり、夜はカラオケで元気に楽しく過ごすことができました。

2日目の「笹川流れ観光船」での遊覧で、ここは義経公伝説でも有名な場所でもあり、澄み切った海の船上からのカモメの餌やりは沢山のカモメが寄ってきて賑やかでした。

「イヨボヤ会館」では、鮭資料館があり鮭漁法の道具の展示がありました。今年の鮭の遡上は2匹確認とのことであり、この日は運が悪く三面川の分流の種川の水路工事が行われていて、水は濁っている状態でしたが、その様は大変圧巻だと想像できるものでした。

「岩船港鮮センター」では、皆さんはお土産を沢山買われていました。今回見れなかった瀬波の夕陽と鮭の遡上は、次回瀬波を訪れたときのお楽しみとしておくこととします。

最後に私ごとですが、最近は肉類を食べることが減りました。そんな中、日本海側の旅行でありましたので、磯の香りを嗅ぎながら十分に海の幸を堪能できました。バスでの長旅でしたが、車中はお互いに和気あいあい楽しんでおられました。



「イヨボヤ会館」前にて記念撮影



旅館の夜、宴会で盛り上がる

# 適度な緊張感が認知症予防にと！

## 高甫班副班長 村石菊司

シルバー人材センターの会員になろうと思ったのは、当時新聞に「買い物難民」の言葉が躍っていました。

以前、移送サービス運転者研修を受けていたことから年明けの令和4年1月に申し込みしましたが未だこの地域での需要が無く2ヶ月過ぎた頃、複合施設のディケアの送迎運転に空きが出た旨連絡があり急遽3月に入会し早速(2日/週)送迎運転業務に従事することになり、この3月で丸3年になります。

ご利用者様の大半が車イス利用、車は最大級のハイエースで全長5m40cm、幅1m90cmの為、車庫入れ等慣れるまで緊張の連続でした。

運転中はご利用者様の安全で乗り心地を極めるため安全運転は勿論のこと、市道・県道に関わらず孔いた道路等があれば市の道路河川課に連絡し補修して頂いたり、道路にはみ出した樹木の伐採等を依頼しています。

広範囲にわたる道路の凹凸箇所は大幅な予算の確保等から直接市長宛てにEメールしています。さらには昨年の盆明け早々17日、長野市の介護送迎車の火災があり車の点検にもより一層入念に行っています。

また、通所ならではの出来事の一つに毎年春の送迎時、鮎川の堤防沿いの100本近い桜の花見をし、元気と感動をご利用者様にふり注ぐよう案内しながら複合施設に向かう事もあります。

ご存知の様に複合施設の駐車場は位置的に地下にあり、車の鍵の受け渡しで事務所に行く際階段の昇り降りがあり、足腰を鍛える意味で毎日早朝に臥竜公園へ約9千歩のウォーキングを行っています。

また、令和5年12月1日から道路交通法の改正に伴いアルコール検知器を用いた酒気帯び有無確認が義務化され、運転の出発前・到着後(朝、夕)2回ずつ計4回実施しています。

それから間もなく元旦に能登半島地震で多くの人命を失い・家屋の全半壊が有り、まだ復興途中の9月には観測史上最大の異常降雨があり、常々慕っているM事業家の言葉【天の機嫌一つですべてひっくり返される】を噛みしめると共に昨年1月、後期高齢者の仲間入りした身としては運転技能・認知機能等の検査を実施し「週2~3日程度の送迎運転業務による緊張感も認知症予防に繋がるのかな…」と自問自答しながら人生100年時代を明るく元気にご利用者様に安心・安全をお届けしていきたいです。



就業風景